農のことば

農家の言葉を通して
農業の魅力に触れる

大切なのは、どんな生き方がしたいのか。

株式会社esaki
ジョージ農園
江﨑（えさき） 佑（ゆう）さん

愛知県名古屋市出身。北海道大学を卒業後、長沼町にて2010年に新規就農。果樹やブロッコリーを育てながら、思い描いていた「暮らし」をひとつずつ実現していっている。

豊かさを感じる瞬間は、田舎にあふれています

「田舎に暮らしたい」。月並みですが、高校生のころにはそう心を決めたんです。ただし、若いうちに具体的なイメージを本気で突き詰めました。40歳までにのどかな街に家を建て、奥さんと子どもが僕の帰りを待っている。居間には大きなソファを据え、時に趣味のギターなんか弾いたりして。そうそう、夢見た我が家はログハウスだったっけ。

そんな理想に向け、自分は何を生業にすべきか…僕の導き出した答えが農業です。だから、地元の名古屋を出て北海道の大学に進み、「農」を学んだうえで新規就農の道を選びました。思い描いていた通り、今は妻と二人の子どもにも恵まれています。まあ、昨年建てた家はログハウスではないけれど(笑)。

もちろん、田舎にも多くの仕事があります。僕の場合は日がなPCとにらめっこするよりも、農業が向いていると思っただけのことです。実際に農作業も楽しいんですが、大切なのはどんな仕事をするのかではなく、どんな生き方がしたいか。

ふとした瞬間に心を洗ってくれる美しい夕日。気づけば軒先にぶら下がっている野菜の差し入れ。子どもがのびのびと毎日を過ごせる自然環境。僕が夢見た豊かさは、田舎のそこかしこに転がっています。そんな価値観を若い人に伝えたいんですよね。

今は「豊かさ=お金」ではない時代。でも、農業はことさら大変だってイメージが根付いています。まあ、確かに辛いことも多いですし、都会に比べてきっと収入も少ないかもしれませんが、農業は田舎の豊かな暮らしを実現させるための「生き方の選択肢」なんです。

いい大学を出ていい企業に就職するのがいい人生…というステレオタイプは少しずつ変わり始めていると思います。人によって価値観は異なりますが、思い描く生き方を歩むためにどんな仕事をすべきか、という考え方が当たり前の時代になっていくと素敵ですよね。

INFORMATION

北海道からのお知らせ

砂糖の消費拡大の取り組みとお願い

砂糖は「太る」、「糖尿病になる」など悪いイメージを持たれていますが、実は砂糖が肥満や病気の直接的な要因ではないことや、脳に必要なエネルギー源として重要であることはあまり知られていません。加えて、人工甘味料等の台頭などから、砂糖の消費量は減少が続いており、このままでは、道内で砂糖の原料として栽培されているてん菜の作付けや製糖業にも影響しかねません。

そこで、砂糖やてん菜についての理解を深めていただこうと、道と独立行政法人農畜産業振興機構札幌事務所は、8月17日～18日に道庁1階ロビーで「砂糖とでん粉のパネル展」を開催しました。原料となるてん菜の模型やパネルを展示し、たくさんの方にご来場いただきました。

また、JAグループ北海道は「天下糖一プロジェクト」と題して、砂糖の消費拡大に関するPR活動を行っています。ホームページでは砂糖の正しい知識を“甘口糖兵衛”という戦国武将が分かりやすく解説していますので、是非ご覧いただき、砂糖の消費拡大にご協力をお願いします。

(https://tenkatoitu-project.jp/) ※右記QRコード参照

お問い合わせ
農政部農産振興課
TEL.011-204-5434
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsk/tensai/

HOKKAIDO+1（ほっかいどう プラスワン）
毎日の生活にお花をプラス

北海道の花き生産額は国内8位、そのうち切り花は国内4位で、昼夜の寒暖差がある冷涼な気候を活かし、色鮮やかで日持ちが良く、多種多様な花を生産する夏の産地として高い評価をいただいています。

道では本年7月に「北海道花きの振興に関する条例」を公布し、8月7日を「北海道花の日」と定めました。

初めての「北海道花の日」を迎えた今年は、道と関係団体が、生産者・市場・生花店・消費者をつなぐ「HOKKAIDO 花でつなごうプロジェクト」として、道産花きによる各種展示を、出荷最盛期の7月から8月にかけて道内各地で行いました。

日々の暮らしに潤いと彩りを添え、癒やし効果もある花を身近に置いて、明るく心豊かな生活を送りませんか？

(http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsk/hana/kakishinkoukyougikai.htm) ※右記QRコード参照

お問い合わせ
農政部農産振興課
TEL.011-204-5436
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/nsk/hana/

農業経営に関する お悩み解決をお手伝いします！

農業経営者の皆さんが抱えている様々な課題に対応するため、(公財)北海道農業公社に「北海道農業経営相談所」を設置しました。

「法人化したい」「事業を拡大したい」「6次産業化に取り組みたい」「GAPに取り組みたい」「しっかりとした労務管理を取り入れたい」「どうすれば経営を継承できる？」といった農業経営に関するお悩みに農業経営相談所がお応えします。

農業経営相談所には、中小企業診断士、社会保険労務士や税理士をはじめ、農業法人経営者など、農業分野での様々な経験を持つ専門家が登録されています。皆さんからご相談をいただいた場合、その内容に最適な専門家を無料で派遣し、地域の関係機関とも課題を共有して解決をお手伝いします。

お住まいの地域の(総合)振興局農務課、農業改良普及センターでも対応しているほか、今後、地域の課題に寄り添った現地セミナーや個別相談会などの開催も予定していますので、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ
農政部農業経営課（TEL.011-206-7364）
各(総合)振興局農務課または(公財)北海道農業公社農業経営相談室(TEL.011-522-5579)
E-mail : keieisodan@adhokkaido.or.jp
https://www.adhokkaido.or.jp/keieisodan/keieisodan.html

次号の「コンファ春号」を無料でお届けします

次号（2021年春号）は2月頃に発行する予定です。送付を希望される方は、右の綴じ込みハガキに必須事項を記入し、ご感想などを添えて投函してください。WEBアンケートやメール、電話、FAXでも受け付けていますので、「コンファ2021春号希望」と明記のうえ、①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号を記載し、下の宛先までお申し込みください。

〒060-8588 北海道農政部農政課政策調整係（住所の記入不要）
TEL 011-231-4111（内線27-126） FAX 011-232-4126 Eメール nosei.noki2@pref.hokkaido.lg.jp

編集後記

特集「農業は、いろんなシゴトでできている。」では、農業を支える様々な仕事に就く9名の方々をご紹介しました。普段はなかなか知ることができないプロフェッショナルな方々の想いを通して、より農業への理解を深めていただけたらと思っております。なお、今号からページ数を16ページから20ページ、発行部数を2万部から3万部に増やしました。今後とも、多くの方に農業・農村の魅力を伝えられるよう努めてまいります。